

研究拠点の動き

2022年5月10日 第100回拠点セミナーを共催しました。

2022年5月25日 第71回拠点運営会議を開催しました。

水素都市基盤施設の安全確保技術の開発

韓国科学技術情報通信部の研究課題「水素都市基盤施設安全および安全確保技術開発」プロジェクト(2022-2026年)に参加し、進行中です。水素都市基盤施設の防護・安全システムの開発、水素爆発・燃焼などを考慮した地下化防護構造・材料システムの評価及び安全設備、運営システム、都市ブルー水素プラットフォーム開発など研究を実施、水素経済の拡大及びカーボンニュートラルを実現しようとしています。



水素都市基盤施設



[編集・発行]
広島大学 エネルギー超高度利用研究拠点

研究相談、共同研究など大歓迎です!

〒739-8511 広島県東広島市鏡山1-3-2
広島大学学術・社会連携室 URA部門内 HU-ACE拠点事務
e-mail: hu-ace-info@ml.hiroshima-u.ac.jp, tel:082-424-4425
拠点ホームページ: <https://hu-ace.hiroshima-u.ac.jp/>

研究トピック紹介

No. 32

炭素中立燃料によるエンジン燃焼の革新

三好 明

広島大学 大学院先進理工系科学研究科 教授

研究分野: 燃焼工学, 燃焼化学, 化学反応論

研究キーワード: 燃焼詳細反応機構, エンジン燃焼と燃料



研究概要

研究背景

地球温暖化と気候変動への対策には、化石資源に依存しない再生可能エネルギーへの移行が不可欠です。このとき、自動車の一部は電気自動車に置き換わるとともに、エネルギー密度の高い液体燃料であるガソリンや軽油を炭素中立エネルギーから生産することが考えられています。このとき、石油から作るのと同じ燃料にする必要はありません。より自動車エンジンに適した燃料が供給できれば、エンジンの性能はさらに向上し、二酸化炭素の放出を抑えることができます。それではどんな燃料がいいのでしょうか？ その答えを探るのが私たちの研究です。

研究方法

この問に答えるための研究は、自動車会社、石油会社と、複数の大学の研究者の共同研究によって推進されています。その中で、燃焼の化学反応を明らかにし、「よい燃料がどうしてよいのか」を明らかにするのが私の役割です。燃焼は非常に多くの化学反応素過程からなる化学反応です。その反応機構は過去の実験的・理論的研究から構築されますが、不足するものは、量子化学計算などによって補います。そして、多くの化学反応過程の連立方程式を数値的に解くことで燃焼現象を再現し、明かにしていきます。ここではこのような数値計算によって得られた成果を紹介したいと思います。

研究成果

ガソリンエンジンの熱効率はノックとよばれる異常燃焼によって制約を受けるため、燃料はオクタン価と呼ばれるノック耐性が規制されています。図1はいくつかの燃料の着火遅れ時間を温度の逆数に対してプロットしたものです。オクタン価の高い燃料は低温 (<1000 K) で着火しにくい燃料です。最近のエンジンの研究は燃焼温度を低下させて冷却損失を抑えるために、燃料の希薄な条件での運転をめざしています。このような希薄燃焼では、茶色や緑色で示すモデル燃料のように、高温 (>1000 K) で着火遅れ時間が短い燃料が、良好な特性を示すことが分かってきました。もう一つの特性の解明のために行われた計算を図2に示します。エンジンの中での火炎の伝播現象は確実に速く起こることが望まれますが、希薄条件ではそれが阻害されます。その消炎への耐性が図のそれぞれの曲線の右転回点で表されます。この例では分子量が小さい燃料がこの耐性が強いことを示しています。

文献

- [1] 三好 明, 燃料の輸送係数と点火着火特性の関係, 第59回燃焼シンポジウム, E123, 2021年11月22~24日.
- [2] 三好 明, 燃料の火炎伸張消炎特性とSI燃焼特性の関係について, 第57回燃焼シンポジウム, E132, 札幌, 2019年11月20~22日.

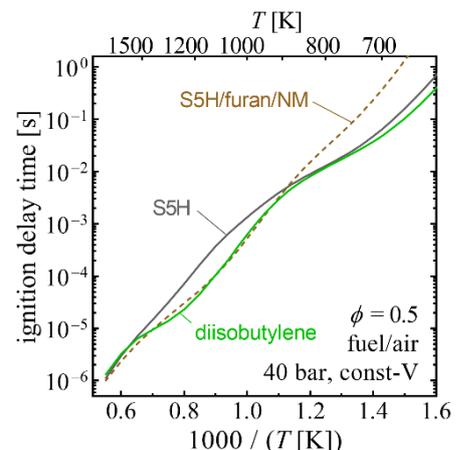


図1. 着火遅れ時間の温度変化

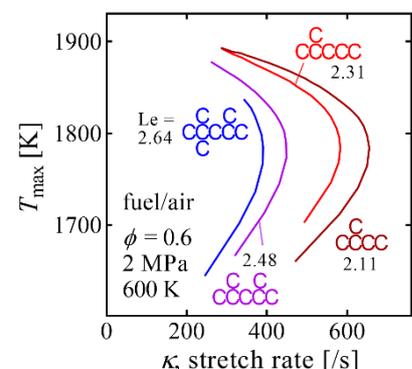


図2. 消炎限界火炎伸張速度